西田幾多郎 没後80年

哲学する本棚

戦争・平和と哲学

2026 年

1/24［土］－3/8［日］

会場：哲学館 B1F ホワイエ<入場無料>

戦後 80 年を経過して、今、わたしたちは「戦争と平和」のために、何を学び、何を考える必要があるのか？

――この問いについて、身近な話題から歴史にいたるさまざまな題材をたよりに、哲学を軸として考える本を 50 冊選びました。哲学館ホワイエに期間限定の読書空間が出現します。本を手にとって、読んで、考えてみてください。

なぜ戦争するのか？	哲学者の考える平和とは？	平和はつくれるか？	戦争の中、戦争の後	異文化同士が接触するとき	京都学派と「あの戦争」

哲学カフェ ❶ 2月1日「けんかするのはわるいこと？」 ❷ 2月22日「人間は進歩するのか？」 ❸ 3月1日「責任とは何か？」

時間：各回 13：30 ～ 15：30　定員：各 10 名　○要申込 ○先着順 ○参加費無料※

会場：哲学館ホワイエ　進行：鈴木亮三（石川県西田幾多郎記念哲学館研究員）

※哲学カフェは、集まった者同士で身近なテーマについて語り、考えるイベントです。
参加申込は各回 1 か月前から 1 週間前まで哲学館（076-283-6600 ／ nishida-museum@city.kahoku.lg.jp）で受け付けます。
定員を超えた申し込みがあった場合は、お一人様一回を原則とし、他の回に参加していない方を優先させていただきます。

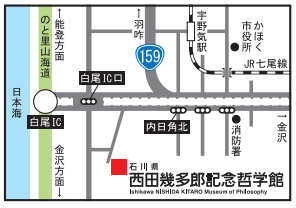
石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126　石川県かほく市内日角井 1
TEL（076）283-6600　FAX（076）283-6320
URL https://www. nishidatetsugakukan. org/
E-mail nishida-museum@city. kahoku. lg. jp

■facebook ／ Instagram でも関連情報を随時更新しています。

開館時間■ 9：00 ～ 17：00（入室は 16：30 まで）
休　館　日■月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

交通アクセス
【車 利用】北陸自動車道［金沢東 IC］－国道 159 号線〈約 20 分〉
のと里山海道［白尾 IC］－〈約 5 分〉
【JR 利用】金沢駅－IR いしかわ鉄道線・七尾線〈約 25 分〉－宇野気駅－
－徒歩〈約 20 分〉－哲学館



哲学する本棚

戦争・平和と哲学

展示書籍のご紹介

1 なぜ戦争するのか？

戦争よりも平和がいい。それなのに、どうして戦争をするのだろう？

**『やくそく
ぼくらはぜったい
戦争しない』**

那須正幹／作　武田美穂／絵　ポプラ社

「おばあちゃん」とその死んだ「にいちゃん」、そして「ぼく」との身近なふれあいから、過去の戦争へと想像力が向かう物語。戦争と平和というむずかしい問題を、どこから考えたらよいだろうか。

2 哲学者の考える平和とは？

哲学者は戦争や平和について考えてきたが、それはどのような思索だったのか？

**『永遠平和のために／
啓蒙とは何か 他３編』**

カント／著　中山元／訳　光文社

哲学者による平和論としては、この書物をはずすことはできない。西田幾多郎の同僚朝永三十郎が日本にいちはやく紹介したことでも知られている。今日では「平和とはいかにして可能か」について、カントの議論を基礎にできるか否かも問われている。

3 平和はつくれるか?

平和は目に見えず、手でつかめない。空気のような平和をつくることはできるのか？

『なんでもおんなじ？ふたりはともだち』

コリンヌ・アヴェリス／作　スーザン・バーレイ／絵
前田まゆみ／訳　フレーベル館

りすのソレルとともだちのセージは、なにからなにまでおなじ。しかし、おとまりをきっかけに、ふたりのちがいが明らかに。ともだちどうしでも、ささいなちがいに驚いた、そんな経験はないだろうか。これが国と国であったら、と想像が膨らむ。

4 戦争の中、戦争の後

戦闘だけが戦争ではない。戦争はいつ始まり、いつ終わったと言えるのか？

**『ケストナーの戦争日記
1941-1945』**

エーリヒ・ケストナー／著
スヴェン・ハヌシェク／編
酒寄進一／訳　岩波書店

作家・ケストナーは、独裁政権下のドイツにとどまった。真偽のわからない噂、皮肉のこもったジョーク、悪化していく戦況。日本の戦争日記と比べてみると興味深い。

5 異文化同士が接触するとき

言葉も食べ物も何もかも違う国どうしが出会うとき、お互いを理解するには、何が必要だろうか？

『新編　日本の面影』

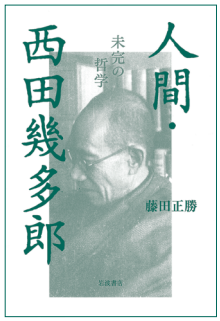
ラフカディオ・ハーン／著
池田 雅之／訳　角川書店

ハーンは最初から日本を理解できたわけではなく、その友人のなかには最後まで理解できなかった者もいた。ハーンは、日本人の見栄、外国人のストレートな言動などのささいなことから、争いが起こるのを記録している。ハーンの観察のうちに、互いの理解の何らかの糸口があるだろうか。

6 京都学派と「あの戦争」

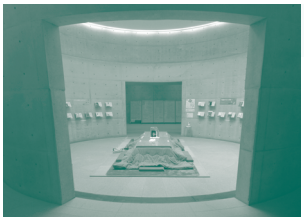
「京都学派」の哲学は、第二次世界大戦時に思想的に関与したと言われている。彼らは何を考え、何を目指したのか。

**『人間・西田幾多郎
―未完の哲学』**



藤田正勝／著　岩波書店

新版全集をもとにした新たな西田の評伝の試み。1945 年 6 月 7 日に逝去するまでに、戦争についてどう捉えていたか。西田の周囲の動きについて、一つの見取り図を提供している。



展示会場「ホワイエ」の紹介

哲学館のホワイエは、傾いた曲線のコンクリートが大きなガラスの天窓へと広がりながら向かっていく、すり鉢状の円形空間です。円形に切られた空を眺めながら思索することができます。期間中はホワイエの中央にこたつが設置され、周囲に展示された本を自由に手にとって読むことができます。